



# 日本国際教育学会

## JIES NEWSLETTER

February 2017 No.28

### ニューズレターダイジェスト

- 学会長挨拶
- 第27回大会報告
- 第27回総会報告
- 決算報告及び予算案
- 2016-2017年度役員一覧
- 事務局だより
- 紀要『国際教育』第23号原稿募集
- 第28回大会のお知らせ
- 2017 Conference Information



第27回大会 公開シンポジウム  
「世界の中の国際理解教育」

### 学会長挨拶

佐藤千津（東京学芸大学）

#### 会長就任にあたって

昨夏、思いがけず、第27-28期の会長を拝命いたしました。初代会長から数えて10人目となりますが、歴代会長は名だたる方々で、その後の名を連ねることの荣誉と責任を感じております。

私が本学会に入会したのは2000年のことです。イギリス留学を終え、帰国したのを機に入会させていただき、以来、紀要編集委員長や副会長などを務めるなかで、多くを学ばせていただきました。浅学菲才の身で会長の大役をお引き受けすることには不安もありますが、これまでご指導下さった先達諸氏が築かれた伝統を大切に受け継ぎ、学会の更なる発展に向け、より良い形で次へ引き継いでいくために全力で務めさせていただきます。

本学会が会員一人ひとりにとって有意義な研究活動の場となることを願い、第27回総会では「学会活性化のための重点課題」として今期中に実現をめざす6点の課題とそのための予算措置を提案し、承認されました。すべての会員の皆様と共有したいと思いますので、以下に述べさせていただきます。

第一に、第30回大会にあわせて学会創立30周年記念事業を実施するため、事業内容を検討するための準備委員会として「学会創立30周年記念企画委員会」を設置します。当面は研究担当理事を中心に記念大会の開催、記念誌の発行などを含め、各種企画について検討します。

第二に、国際連携を一層推進するため、海外諸国・地域における関連学会とのパートナーシップ構築の可能性を探りながら、シンポジウムやセミナー等の共同開催、大会への会員相互派遣など、国際連携の在り方について国際交流担当理事を中心に具体的に検討します。

第三に、学会の将来的発展のためには若手会員の研究活動の活発化が不可欠です。本学会は若手会員が比較的が多い学会で、かつては若手会員を主な対象として、研究内容に関する実質的議論の時間を長めに取った春季研究会を実施するとともに、優秀な発表は紀要に推薦する春季研究会推薦論文といった取り組みも行っておりました。残念ながら、秋の大会との兼ね合いなど運営上の問題から中止するに至りましたが、その後継事業とすべき若手会員の研究交流推進策を検討します。

第四に、会員の拡大とそのための広報を強化します。国際教育分野の研究者のみならず、実践者も含めて会員を拡大することは、多様な研究交流の促進に加え、学会の安定的基盤づくりの意味でも重要です。本学会の活動に関する広報活動を強化するとともに、「国際教育」の名にふさわしい多彩な活動や交流の在り方を探りたいと考えております。

第五として、紀要の電子化・公開作業の効率化を図ります。これについては前々期から継続して作業を行っているところですが、スピード感を持って進めるため、「紀要電子化推進委員会」を「紀要電子化推進ワーキンググループ」に改組し、紀要電子化・公開作業の効率化と加速化に努め、研究成果や学術情報に関する発信力を効果的に高めます。

最後に、やや事務的なことですが、テレビ（ウェブ）会議システムの実現を検討するという課題があります。理事会や各種委員会などにおいては遠方からの会議出席に要する時間と経費が課題となっております。それらを縮減するとともに国内外の関係者間で迅速に情報共有および意思決定が行える条件づくりに努めます。

この他にも取り組むべき課題はありますが、会員の皆様にとって本学会が魅力的な学会であり続けることを願い、副会長をはじめ、理事並びに事務局の皆様と力を合わせて、上記の課題から優先的に取り組んでまいります。

これからの2年、学会で実りある時間を共有できますことを楽しみにしております。

今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

---

## 第27回大会報告

### 1. 日本国際教育学会第27回大会報告

大会実行委員長 大庭 由子（安田女子大学）

日本国際教育学会第27回大会は2016年9月10日（土）・11日（日）の2日間にわたり広島のア田女子大学において開催されました。9月10日は広島カープリーグ優勝と重なり、ご参加の皆さまは地元の真っ赤なカープファンとともに熱気あふれる広島をご堪能いただけたのではと思っております。

大会実行委員会は委員長、大会事務局長、すべて実行委員長兼務のため、学会会長、副会長、事務局長をはじめ、全国の学会会員の皆さまのご支援なくしては開催にこぎつけませんでした。当日は臨時会員としてご参加くださった方々からも多大なるご協力をいただ

き深く感謝いたしております。お蔭様で無事終了することができました。

大会初日は自由研究発表と公開シンポジウムが行われました。午前中には各国の諸問題と教育問題および日本の事例研究など 12 件の多彩な研究が発表されました。午後の公開シンポジウムは、「世界の中の国際理解教育」と題し、国内外で展開されている国際理解教育の原点に立ち戻り、さまざまな立場、観点からもう一度見つめなおすことを目的としたテーマを設定しました。今年はサミット終了後オバマ大統領が広島を訪問し、広島の国際的な認知度が高まり「核廃絶」「平和」を問い直すきっかけとなりました。シンポジストの皆さまも多様な分野からご登壇いただき、素晴らしい組み合わせとなりました。

戦後、世界平和を願い設立された国連の日本事務所は広島に設置されました。その国連ユニタール広島事務所長の隈元美穂子氏からは、世界紛争と国際理解教育を推進する社会環境整備の重要性についての講演がありました。また、グローバル化する広島と世界をつなぐ教育を推進する広島県教育委員会事務局からは教育部学びの変革推進課長の寺田拓真氏から具体的な「広島創生イノベーションスクール」についての活動状況が報告されました。さらにこの活動の一翼を担う代表校として、広島県立安古市高等学校校長船津久美氏、同校 2 年生の木ノ内桜子さんと林菜々子さんから広島イノベーションスクールへの参加、地域活動などについての事例報告がありました。開催校である安田女子大学からは教育学部 4 年生の濱本則子さんが小学校学習指導要領における国際理解教育、2020 年から教科化される小学校の英語教育についての具体的な事例研究発表がありました。発表後のフロアとの質疑応答も活発に行われ、司会の小川佳万会員（広島大学）が終了時に「これから議論をさらに深めたいですね」とコメントする一幕もあったほどでした。

総会では佐藤千津会長の下新体制がスタートし、日本国際教育学会のさらなる発展が期待されるプランが披露されました。

2 日目は前日のカープ優勝フィーバーが冷めやらぬ中で、課題研究からスタートしました。テーマは現在移民問題が世界中を駆け巡る中、喫緊の課題である「多文化共生教育の国際比較」をテーマに実施されました。

多文化共生社会が叫ばれてからかなりの年月が過ぎ、さまざまな研究が展開されています。しかしながら、難民、移民に対する対応はなかなかうまくいかないのが現状であり、教育支援にそのしわ寄せが及んでいるといっても過言ではありません。この現状を踏まえて世界の国々における「マイノリティ」に対する教育支援について討議が行われました。高山和孝会員（東京未来大学・非）からは日本の外国人受け入れの課題について、田中達也会員（釧路公立大学）からはドイツ語圏を中心とした多文化共生教育についての報告がありました。移民大国としてのアメリカにおける学生支援については寺野摩弓会員（国際教養大学）から最近の教育現場からの課題が紹介されました。アジアでの多文化教育の取り組みについて呉世蓮会員（早稲田大学・非）から結婚などによる海外からの移住労働者の増加による多文化化する韓国社会の課題についての報告がありました。

午後は 13 件の自由研究発表が行われ、予定通りすべてのプログラムを終了し閉会することができました。

建設中の校舎に隣接し、改装工事が始まった校舎が大会会場となり、理想的な会場設営が困難な状況でペンキの香が漂う会場となりましたことをご詫び申し上げます。遠隔地にも拘わらず、46 名の大会参加をいただきましたことに深く感謝いたします。さらに懇親会には 29 名の会員と 3 名のシンポジストが参加くださり、広島市中心街で「広島カキ」を中心とした料理を楽しみながらの和やかな会となりました。懇親会終了後は、多くの会員が広島カープリーグ優勝を祝う広島市民とハイタッチをしながら宿舎に向かったというエピソードを伺いました。

最後に今大会の運営にあたり、渡辺幸倫（相模女子大学）第 26 回大会実行委員長から運営に関するデータおよび膨大な情報をご提供いただいたお蔭で運営がスムーズに行われましたことをここにご報告いたします。さらに未熟な大会実行委員長を最後までお支えく

くださった会長、副会長、事務局長ならびに理事の皆さまをはじめ、無理難題をお引き受けくださった多くの学会会員の方々のお力添えに改めて御礼申し上げます。

---

## 2. 大会の感想

濱本則子（安田女子大学教育学部）

私は今回の学会に、公開シンポジウムのシンポジストとして参加をさせていただきました。まだ学部生である私にとって、このような大きな学会発表の機会をいただけたことは、大変貴重な経験となりました。

私は現在、「国際理解教育の視点から見た小学校英語教育に関する研究」というテーマで卒業論文をすすめています。公開シンポジウムでは、その研究のなかで行った広島県内にある小学校の事例調査の結果を発表させていただきました。実を言うと、卒業論文のテーマに設定するまで、国際理解教育に関する知識は全くと言っていいほどありませんでした。大学の講義でも教科や教職に関するものはたくさんありましたが、小学校における国際理解教育に関する具体的な内容の講義はなかったように記憶しています。しかし今後、小学校で教科として外国語（英語）教育が行われるにあたり、導入のきっかけであった国際理解教育に関する幅広い知見を身に付けることは大変重要なことであると思い、この研究テーマを設定しました。

そして研究を始めた現在では、全人教育である小学校教育に携わる者にとって、国際理解教育に関する知見は必要不可欠なものであると感じています。しかし今回の事例調査を行う中で、養成段階の学生のみならず現職教員の意識等からも、国際理解教育を取り巻く状況は決して十分なものであるとは言えないと思いました。そのような中、今回の公開シンポジウムで、幅広い立場の方々から様々な角度での国際理解教育に関するお話を伺えたことは、私にとって大変勉強になりました。それと同時に、発表もさせていただけたことで自分の無知を知り、まだまだ勉強不足であることを痛感させていただきました。

また、学会後の懇親会にもお声をかけていただき、楽しい時間を過ごさせていただきました。私の大学生活の中で、忘れられない一日となりました。

最後になりますが、学部生である私に学会発表という非常に貴重な経験をさせていただき、また拙い発表を温かくご清聴いただきましたこと、改めて皆様に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

## 大会の感想

川崎 典子（宮崎大学）

学部生、修士生としての研究経験しか持たない自分は大学に勤めるようになって改めて真剣に研究に向き合うようになった。学部時代にはイギリス文学作品を通じた市民教育について比較研究を試み、バヌアツで日本語を教える海外ボランティア経験を経たからの修士時代にはバヌアツの観光政策と日本の国際協力の在り方について考察を試みた。現在は工学部に配置された国際教育センターに勤務して理系学生の英語教育支援や留学生との交流促進に携わっている。しかしながら、社会学での研究を志向する私の周りには意見交換や情報共有をする環境が整っておらずに立ち往生する状態であった。その最中に日本国際教育学会に所属する先生から本学会をご紹介頂き、向学の間として研究大会に参加させて頂いた。

本学会は国際教育という観点から広い視野と確かな知見で国内外の教育および人材育成を高度に研究する方々で構成されており、第27回研究会においてもその一端を見ることが

できた。初日の公開シンポジウムにおいては「国際理解教育」を主題に、国連機関に所属する職員、教育行政に携わる職員、学校運営に携わる教員、実際に国際理解プログラムに参加した高校生、そして小学校の国際理解教育の比較研究に取り組む学生と様々な背景を持つパネリストを招いた事例発表と意見交換会が設けられ、翌日の課題研究においては「多文化共生教育」を主題に、日本、ヨーロッパ、アメリカ、韓国における今までの研究成果の発表が設けられ、日本が取り組むべき国際理解教育と多文化共生教育について深い考察を得ることができた。また両日に及んだ自由研究発表では、実に様々な国内外の事例発表や問題提起がなされ、自分自身の研究の方向性を確かめる場とすることができたように思う。このような多種多様な研究を一堂に集めて拝聴することができる本学会は、向学のみならず共同研究の可能性をも生み出すことを暗示する重要な場と考える。

私事ながら今年度より本学会への新規加入を許可頂いたため、現職場で携わるグローバル人材育成の在り方に関する問題提起や理系学生に対する効果的な英語教育の在り方に関する事例研究はもちろん、過去の経験に基づいたバヌアツの実態調査による事例発表で活躍できるように精進したい。この度は予想を上回る学びを与えてくれた本学会に感謝申し上げます。

## 第 27 回総会報告

### 日本国際教育学会第 27 回総会議事録

日時：2016 年 9 月 10 日（土）16:20～17:10

会場：安田女子大学 8 号館 8301 教室

記録：玉井昇

#### I. 報告・承認・決議事項

##### 1. 2015 年度（2014 年 8 月 1 日～2015 年 7 月 31 日）会務報告

- (1) 会員数の現況
  - (2) 2015 年度活動報告
  - (3) 2015 年度決算報告
- ##### 2. 2015 年度会計監査報告
- ##### 3. 各種委員会報告
- (1) 紀要編集委員会報告
  - (2) 学会賞選考委員会報告
  - (3) 紀要電子化推進委員会報告

##### 4. 第 25-26 期役員選挙結果

##### 5. 第 27-28 期理事会および各種委員会体制

##### 6. その他

#### II. 審議事項

##### 1. 学会活性化のための重点課題

##### 2. 2016 年度（2016 年 8 月 1 日～2016 年 7 月 31 日）事業計画

- (1) 2016 年度活動計画（案）
- (2) 2016 年度予算（案）

##### 3. 会計監査の選任について

##### 4. 「日本国際教育学会規則」の改定について

##### 5. 「学会賞の選考に関する規則」の改定について

6. 第28回研究大会の開催校について

7. その他

以上

2016-2017年度 日本国際教育学会役員一覧

【理事会】

役職	氏名	所属	担当	国籍
会長	佐藤 千津	東京学芸大学		日本
副会長	山崎 直也	帝京大学		日本
理事	入澤 充	国士館大学	広報	日本
同	岩崎 正吾	早稲田大学	規程	日本
同	江原 裕美	帝京大学	学会賞	日本
同	大庭 由子	安田女子大学	広報	日本
同	金塚 基	東京未来大学	研究	日本
同	坂内 夏子	早稲田大学	紀要編集	日本
同	田中 圭治郎	佛教大学	紀要編集	日本
同	玉井 康之	北海道教育大学	紀要編集	日本
同	福田 誠治	都留文科大学	国際交流	日本
同	前田 耕司	早稲田大学	研究	日本
同	森岡 修一	大妻女子大学	紀要編集、学会賞(兼任)	日本
同	楊 武勳	国立暨南国際大学	学会賞	台湾
同	吉田 尚史	福岡女学院大学	研究大会(第28回)	日本
同	渡辺 幸倫	相模女子大学	ニューズレター	日本
特任理事	玉井 昇	帝京大学	事務局	日本

【事務局】

役職	氏名	所属	担当
事務局長	玉井 昇	帝京大学	事務局長
事務局次長	呉 世蓮	早稲田大学(非常勤)	事務局次長

【会計監査】

役職	氏名	所属
会計監査	黒木 貴人	広島文化学園短期大学
同	西村 貴之	北翔大学

【各種委員会】

役 職	氏 名	所 属
紀要編集委員会委員長	坂内 夏子	早稲田大学
同 委員	小川 佳万	広島大学
同	小山 晶子	東海大学
同	栗栖 淳	国士館大学
同	田中 圭治郎	佛教大学
同	玉井 康之	北海道教育大学
同	森岡 修一	大妻女子大学
同	若園 雄志郎	宇都宮大学
学会賞選考委員会委員長	江原 裕美	帝京大学
同 委員 (紀要編集委員兼任)	森岡 修一	大妻女子大学
同	牛渡 淳	仙台白百合女子大学
同	平岡 さつき	共愛学園前橋国際大学
同	楊 武勲	国立暨南国際大学
同 幹事	工藤 瞳	日本学術振興会特別研究員
紀要電子化ワーキンググループ	白幡 真紀	日本学術振興会特別研究員
同	高橋 春菜	盛岡大学
学会創立 30 周年記念事業 企画委員会 委員長	前田 耕司	早稲田大学
同 委員	金塚 基	東京未来大学
同	上野 昌之	日本大学 (非常勤)
同 幹事	高山 和孝	第一法規/東京未来大学 (非常勤)

事務局だより

1. 連絡先・ご所属変更を至急お知らせ下さい。

所属変更等にともない会員資格や連絡先に変更がある方がおられましたら、事務局までメール (jies\_jimukyoku@jies.gr.jp) にてご一報下さい。

2. 新入会員

2015 年度日本国際教育学会第 3 回理事会 (2016 年 4 月 16 日) 7 名入会

2015 年度日本国際教育学会第 4 回理事会 (2016 年 7 月 18 日) 2 名入会

2016 年度日本国際教育学会第 1 回理事会 (2016 年 9 月 10 日) 2 名入会

以上

## 日本国際教育学会紀要『国際教育』第 23 号原稿募集

日本国際教育学会紀要編集委員会では『国際教育』第 23 号の発刊に際し、自由投稿研究論文、研究ノート、調査報告、教育情報、資料紹介を募集いたします(2017年3月1日必着)。投稿希望の会員は以下の要領にしたがって投稿して下さい。なお、投稿原稿の募集に関しては、本学会公式ウェブサイト (<http://www.jies.gr.jp/>) の「学会紀要」のページで「編集規程」および「投稿要領」に関する最新情報を必ず確認するようにして下さい。

### 1. 投稿要領 (論文・その他)

#### (1) 投稿資格

投稿資格は、日本国際教育学会の会員に限られる。投稿に際して、入会審査が完了していること、当該年度の会費を完納していることが投稿の条件となる。

#### (2) 投稿論文 (等) のテーマ

論文 (等) のテーマは日本国際教育学会活動の趣旨に沿うものとする。

#### (3) 投稿原稿の要件

- ① 投稿原稿は、口頭発表の場合を除き、未発表のものに限る。
- ② 使用言語は、日本語、英語、中国語のいずれかとする。
- ③ 他の学会誌や研究紀要などへの投稿原稿と著しく重複する内容の原稿を本誌に併行して投稿することは認めない。
- ④ 前号に論文 (等) が採用された者の連続投稿は原則として認めない。
- ⑤ 本投稿要領に反する原稿は受理できない。

#### (4) 投稿原稿の種類

- ① 研究論文：国際教育に関する理論的知見を伴う研究成果であり、独創性のある実証的または理論的な論考。
- ② 研究ノート：論文に準じ、断片的に得られた研究成果や調査成果であり、特に新しい知見、萌芽的な研究課題、少数事例、新しい調査・研究方法、などの発見・提起に関する考察で発展性のあるもの。
- ③ 調査報告：国際教育に関する調査の報告であり、調査の目的と方法が明確で、なおかつ調査結果の分析と解釈が妥当で資料的価値が認められるもの。
- ④ 教育情報：国際教育の参考となる研究・実践・政策等に関する情報で、速報性と話題性の観点から研究上の価値が認められるもの。
- ⑤ 資料紹介：国際教育の参考となる資料の紹介であり、国際教育の研究と実践においてその資料を広く共有することの意義が認められるもの。

#### (5) 原稿の様式

- ① 原稿は、図や表、脚注を含めて全て横書き、ワープロ書き、10.5 ポイントとし、A4 判用紙を使用することとする。
- ② 和文、中文は、1 行 40 字×40 行(1,600 字)で印字する。英文はダブル・スペース 22 行とする。
- ③ 執筆分量は下表の通りとする。

投稿原稿の別	ページ数制限
研究論文 (Research Paper)	和文 10 ページ以内
	英文 23 ページ以内
	中文 6 ページ以内

研究ノート (Research Note)	和文 8 ページ以内 英文 19 ページ以内 中文 5 ページ以内
調査報告 (Research Report)	和文 5 ページ以内 英文 15 ページ以内 中文 3 ページ以内
教育情報 (Research Information)	
資料紹介 (Data)	

- ④ 英文原稿は American Psychological Association's Manual of Style, 5<sup>th</sup> Edition に準拠する。
- ⑤ 題目は 12 ポイントとし、日本語・中国語の場合は副題も含めて 30 字以内、英語の場合は 15 words 以内とする。
- ⑥ 原稿にはページ番号を付す。
- ⑦ 審査の公平を期するため、提出する原稿において「拙著」「拙稿」の表現や、研究助成や共同研究者・研究協力者等に対する謝辞など、投稿者名が判明するような記述は行わない。
- ⑧ 投稿に際しては、十分に推敲を行うこと。特に外国語を使用する場合、誤字・誤記あるいは文法的誤りのないように十全の準備を行い投稿すること。
- (6) 原稿送付方法
- 1) 投稿の際は、以下の 3 点 (投稿原稿、要旨・日本語訳、投稿原稿種の区分と連絡先) の電子ファイルを、原則として email にて下記アドレスに提出する。
  - 2) 原稿は、Microsoft Word (拡張子 doc もしくは docx.) にて作成し、無記名で提出する。
  - 3) 和文論文には英語 500 語以内の要旨、英語・中国語論文には日本語の要旨 (A4×1 枚以内。字数は上記規定に準拠する) を Microsoft Word (拡張子 doc もしくは docx.) にて作成し、無記名にて提出する。英文要旨にはその日本語訳をつける。
  - 4) 別紙 (A4 判) に、投稿原稿種の区分、原稿の題目、氏名 (日本語・英語)、所属・職名 (日本語・英語)、連絡先 (住所、電話、メールアドレス) を記入して提出する。
  - 5) 提出後の原稿の差し替えは認めない。また原稿は返却しない。
  - 6) 投稿する論文 (等) と内容の面で重複する部分を含む論文 (等) を既に発表ないし投稿している場合は、その論文 (等) のコピーを 1 部添付する (郵送可)。
- (7) 原稿送付期限
- 投稿原稿は 2017 年 3 月 1 日 (必着) までに、紀要編集委員会宛に提出するものとする。投稿原稿は、紀要編集委員会において審査を行い、採択、修正のうえ再審査、不採択が決定され、投稿者に通知される。再審査の場合、定められた期間内での原稿修正の権利が与えられる。

## 2. 問い合わせ先/原稿送付先

日本国際教育学会紀要編集委員会事務局  
 email: [jies.kiyou@gmail.com](mailto:jies.kiyou@gmail.com)  
 〒169-0850 東京都新宿区西早稲田 1-6-1  
 早稲田大学教育学部 坂内夏子 気付  
 Tel & Fax: 03-3204-8253

※論文提出後 3 日以内に受領確認メールが届かない場合は、上記編集委員会に必ず問い合わせてください。

**ADDITIONAL GUIDELINES FOR ENGLISH MANUSCRIPTS**  
**CALL FOR PAPERS: JOURNAL of INTERNATIONAL EDUCATION, Volume 23**

Submissions to the 23rd edition of the Journal of International Education are now being accepted, with a deadline of March 1, 2017. Authors making submissions in English should review the following guidelines. Any manuscripts not conforming to this procedure will not be accepted. Authors should also refer to the latest version of this procedure in addition to the Provisions for Editing Bulletins of JIES on the JIES website (<http://www.jies.gr.jp/>) before submission.

1. Conditions for accepting manuscripts

- (1) Manuscripts must be original work of the author(s).
- (2) Journal of International Education (JIE) considers all manuscripts on the strict condition that they have been submitted only to JIE, that they have not yet been published, nor are they under consideration for publication elsewhere.
- (3) Authors whose papers were accepted in the previous year cannot submit in the present year.

2. Submission

- (1) Papers should be double spaced, submitted on A4-size paper, and contain twenty-two lines per page. Margins on the top, bottom, and sides should be no shorter than 2.5 centimeters (i.e., one inch). The title should be typeset in 12pt font in 15 words and the body of the paper should be typeset in 10.5pt font. Papers, when properly formatted, must not exceed the size limits stated for the paper categories as follows:

Submission category	Size Limit
Research Paper	23 pages, including all text, references, appendices, and figures.
Research Note	19 pages, including all text, references, appendices, and figures.
Research Report	15 pages, including all text, references, appendices, and figures.
Research Information	
Data	

- (2) We require that manuscripts be submitted to **[jies.kiyou@gmail.com](mailto:jies.kiyou@gmail.com)**. If contributors are unable to access email, we will accept disk/CD/USB Flash submissions by mail at the address below.
- (3) A cover sheet should include the category of the manuscript (choose one from this list: research paper; research note; research report; research information; data), title, author's name, author's affiliation, mailing address, telephone/fax number, and e-mail address.
- (4) A completed manuscript should be submitted and cannot be returned or replaced once submitted.
- (5) All English manuscripts must include a Japanese abstract that is no longer than one page in length (A4 size).
- (6) For pagination, use Arabic numerals.
- (7) The manuscripts should not have any textual references to the author(s). References to the author's names should be blacked out. The acknowledgements should not be included at the time of submission.

3. Style and format

For general guidelines on appropriate style and format, please refer to the Publication Manual of the American Psychological Association, 5<sup>th</sup> Edition.

Example:

Smith, J. (2000). *The educational challenges of the new century*. New York: Broadway Publishing.

Pavil, S. (1997). Capitalizing on cultural capital: The movement of knowledge through corporations. *Harvard Business Journal*, 14 (1), 654-675.

4. Decision to accept

All manuscripts will be accepted without revisions; accepted conditionally, with stipulations for more revisions; or rejected. In the case of conditional acceptance, the Editorial Committee reserves the right to reject a manuscript after revisions have been made if revisions are deemed insufficient.

5. All authors are encouraged to have their manuscript copy-edited before submitting the paper, especially authors for whom English is a foreign language. Writers who submit manuscripts that have typographical and/or grammatical errors risk having their papers rejected.

Please send all submissions by e mail to:

Editorial Office: [jies.kiyou@gmail.com](mailto:jies.kiyou@gmail.com)

Prof. Natsuko Sakauchi

School of Education, Waseda University, 1-6-1 Nishi-Waseda, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-8050, JAPAN

Inquiries about the journal may be directed to the editorial office by e-mail ([jies.kiyou@gmail.com](mailto:jies.kiyou@gmail.com)).

You will receive an email confirmation stating that your manuscript has been submitted. If you do not receive this in 3 days, please contact the editorial office by email ([jies.kiyou@gmail.com](mailto:jies.kiyou@gmail.com)) or telephone (+81-3-3204-8253).

## 第 28 回大会のお知らせ

実行委員長 吉田 尚史

第 28 回大会は下記の通り開催することとなりましたのでご案内いたします。遠方ではございますが、多くの学会員のお越しを心よりお待ちしております。

日程 2017 年 9 月 2 日 (土)・3 日 (日)  
会場 福岡女学院大学 (福岡市南区)  
アクセス JR 博多駅から 約 35 分  
JR 博多駅から下り電車で南福岡駅下車、西鉄バスで「福岡女学院」下車

福岡空港から 約 50 分  
地下鉄空港線「福岡空港」(始発) から「博多」にて下車、JR 鹿児島本線に乗り換え南福岡駅下車、西鉄バスで「福岡女学院」下車

( <http://www.fukujo.ac.jp/university/other/access.html> )

## 2017Conference Information

### 28<sup>th</sup> Annual Conference:

September 2-3, 2017

Fukuoka Jo Gakuin University ( <http://www.fukujo.ac.jp/> )

For further information visit our website <http://www.jies.gr.jp>

日本国際教育学会 Newsletter No.27 (Web 版)

編集発行 日本国際教育学会 代表 佐藤千津

発行所 192-0395 東京都八王子市大塚 359  
帝京大学 玉井昇研究室気付  
日本国際教育学会事務局  
jies\_jimukyoku@jies.gr.jp  
<http://www.jies.gr.jp>

発行年月日 2017 年 2 月 10 日